

春風の便り

06
VOL



こんにちは、
はるたけいしです。
「人と地域が輝く社会づくり」に、
青年らしく颯爽と、
また全力で取り組みます。

いちばん近くで

動く働く



介護総点検街頭アンケートを実施

女性と青年が
未来に夢と希望の
持てる社会が基本

昨年末の地元大手建設業の会社更生法申請により、デフレ経済がいよいよ高松市にも大きな津波のように押し寄せています。また、世界基準通貨であるドルの崩壊がいよいよ現実味を帯びてきており、全世界が大きな歴史の転換点に差し掛かっています。

新しい年を迎え、生活に密着した地方自治体である高松市が、これからどんな舵取りを行うのかが益々重要になってきて

地域で支えあう
介護協働福祉社会
を築く

昨年11月から全国の公明党議員(チーム3000)が一丸となつて「介護総点検」を実施しました。春田も四ヶ所の施設を訪問。また、街頭でのアンケートを実施する等、現場の声を聴きました。施設待機者の解消や、働く環境の改善、そして地域で支えあう介護の実現のために高松市でできる具体的な改善をして参ります。

若者の働きたいに
応える取り組み

今春卒業予定の高校生・大学生の就職内定率が過去最低である状態を受け、しごとプラザ高松と、若者自立塾を訪ね調査を行いました。厳しい就職活動の長期化を支えることや、キャリアプランをもっと気軽に相談できる体制の整備、二ト対策の希薄など、改善点は山積みです。もちろん雇用への取組は新卒者だけのものではありません。「働きたい」に応えること、今最優

瀬戸内国際芸術祭を
一緒に築き上げる

暗いニュースが重なる中、今年高松市では「第2回高松国際ピアノコンクール」と「瀬戸内国際芸術祭」の2つの国際的なイベントが控えています。とりわけ「瀬戸内国際芸術祭」は、「海の復権」とのテーマの下、現代アートをきっかけにして、「瀬戸内地域での暮らし方の再考」、「人の絆・繋がり」の再興が湧き上がってくる最大のチャンスとなります。

評論家となることなく、一緒に動き、汗して働き、自分に果たせる役割を創っていきたいと思います。



瀬戸内国際芸術祭の説明を受ける

の一手とは？

世界基準通貨であるドルの崩壊から、デフレ経済の波がいよいよ高松市にも押し寄せています。こうした世界的な時代の転換点に、高松市はどんな舵取りをするべきか？ 今回の一般質問は、この時代を切り拓くために今為すべき事として、大きく二点の切り口で質問しました。

1 経済危機を克服する 新しいまちづくりについて

過去の歴史を紐解いて見ると、経済危機を脱する時、また時代の転換期には、新しい価値観を示したまちづくりによって道を拓いてきたことがわかります。例えば、平安京しかり、大河ドラマで話題となった直江兼継による米沢の国づくりや、江戸の町、明治の国づくりしかり…。

良いまちを創ろうという人の想いが集まることによって、価値ある建造物が建設され、多くの仕事が生まれる。そして物流が興り、商いが興り、多くの人が訪れ、文化が薫るのだと春田は考えます。

またこれから建設される建造物は、未来の世代にとっても資産となりうる建設計画でなければなりません。高松市の推計人口は、2050年には今より約三割減ると予測されています。それはちょうど、昭和30年代のまちの規模と密集度を思い返すとイメージしやすいでしょう。

さらに少子・超高齢化が進むことも想定すれば、今まで通り、車に依存した生活を前提とした建設計画でいいのでしょうか。本市は今後、学校の耐震工事、新病院の建設など多くの建設計画を抱えています。更に合併による事業や屋島陸上競技場の整備などもあります。今までの延長で議論をするのではなく、時代の転換期を迎え、どんなまちにするのかというビジョン・想いに沿った意思決定が求められているのです。

 まちづくりへの考え、建設計画等における意思決定の優先順位をお示しく下さい。

A これまでのハード重視の拡大基調からソフト戦略を重視する方向へと転換を図り、真の豊かさを実感できる、コン

パクトで、接続可能なまちづくりを目指す。将来に負担を先送りしないよう、市民と行政が知恵を出し合い創意工夫して、未来の子どもたちに誇れるまちづくりを進めたい。

市民の生命と財産を守り、安全・安心を確保することを最優先に、老朽化の進んだ公共施設の適切な維持管理や長寿命化を実施する。

議員の質問は、市長の考えを聞くだけではないかと考えています。具体的な政策提案ができませんと仕事をしたと言えないと思います。

「都心居住」都市のコンパクト化を推進していくためには、単に郊外開発を規制するだけではなく、新しいライフスタイルを試みる住民やそのための住宅を供給する開発業者を支援する制度を充実させなければなりません。

ん。また、そうしたライフスタイルを広く知らしめていくことも重要です。

またなかには、リノベーション（リフォーム）によって、若い世代が求める多様なライフスタイルに応えた居住空間へと変えられる建物が意外と多くあると感じています。この既存ストックを最大限に活用することが、厳しい環境下で必須の対策ではないかと考えます。そして、既存ストックを活用するためには、富山市や金沢市などが実施している「建設促進事業」や「支援事業」を行うことが必要なのではないでしょうか。厳しい時代だからこそ、民間の投資を誘引することが行政としての役割ではないでしょうか。リノベーションによる仕事の増大は、高松市を直撃した建設業の破綻による影響を回避し、未来への価値を作ることになると思います。早急な取り組みが急がれます。

100年後を見通す、次

2

新しい未来を拓く人づくり

昨年、生誕150周年をむかえた二十世紀を代表する哲學家であり教育学者であるジョン・デューイは、代表作『民主主義と教育』の中で、社会を存続させる際に大切な活動は教育であるとし、「更新(リニューアル)」ということを重要視しています。つまり、「成長」とは、新しい文化を創り出す能力であり、社会が環境変化に対応し、連続していくには、単に文化を伝えるのではなく、文化を新しく創造していく、あるいは更新していくことが重要だ、と訴えています。

未知なる歴史の転換期に際し、今こそ「教育」「人づくり」に光を当てる時だと、①こどもの教育環境、②コミュニティ人材の教育、③市民を支える職員の教育について質問しました。

現在、「高松市こども未来計画(後期計画)」、「高松市教育振興基本計画(仮称)」づくりが進行中ですが、重視すべき幼児教育へのビジョン、とりわけ幼児教育を支える幼稚園、保育所の先生、

保育士の待遇改善について、考えが示されていないことが問題だと考えています。今までにも、幼保連携や認定子ども園、民営化に対する考察や問題整理がなされてきましたが、春田の印象では、市財政面からの考察が強く、結局は、人件費の圧縮を指向しているように見えます。そこで、市内の私立幼稚園、保育所を四施設訪問し、ヒアリング調査を行いました。

春田は、優れた志ある先生が頑張る環境をつくるのが政治の役割であると考えています。

「子どもが太陽となり、その周囲を教育の諸々のいとなみが回転する。子ども中心であり、この中心のまわりに、諸々のいとなみが組織される」とのジョン・デューイの箴言のとおり、現場で不足しているマンパワーを補うこと、例えば初質問の時から訴え続けている施設に看護師を配置することや、認定子ども園への移行を支援するための施策を実施するなど、幼児教育を支える環境整備を求めました。

また、あるべき幼児教育の姿に移行できないのは、費用の増大が言い訳となっているのではないかと指摘し、質問しました。

 目指すべき幼児教育のビジョンに近づくために、マンパワーへの投資に対する大西市長の考えは？

A 幼児教育は、人生の基礎を培う時期の大変重要な教育であり、幼児の健やかな成長に資する良好な保育・教育環境を整備することは、未来を担う子どもたちの健全な成長のため、重要な課題であると認識している。特に、幼児の教育にあたる人材の充実、教育の要であり、重要である。教育は、正に人間への投資そのものであり、今後とも一層の充実に努めてまいりたい。

平成21年度第8回定例議会 一般質問項目

1 経済危機を克服する新しいまちづくりについて

- (1) 投資の判断基準となる貸借対照表
- 新公会計制度の公表に向けての進捗状況
 - 先般、公表された将来負担比率に対する受けとめ
 - まちづくりへの考え、建設計画等における意思決定の優先順位
- (2) まちなか居住推進
- 既存ストックとして活用可能な物件の調査を行う考え
 - 若い世代を集住させる施策・事業の早期開始
 - 公募による知的創造産業誘致事業の早期実施の考え

2 新しい未来を開く人づくりについて

- (1) 子どもの教育環境
- 保育所への芸術士派遣事業を実施したねらいと今後の取り組み
 - 目指すべき幼児教育のビジョンに近づくために、マンパワーへの投資に対する考え
 - 子どもたちと瀬戸内国際芸術祭出展作家とのワークショップを行う考え
 - 高松市の児童生徒が、家族で瀬戸内国際芸術祭を体感できる機会の創出
- (2) まちを支える人、市民との協働推進
- 高松市ボランティア・市民活動センターの今後の運営
 - 来年度以降の地域コミュニティ人材養成事業についての方針
 - (仮称)コミュニティ・マネージャー制度の導入
- (3) 地域を支える職員
- 目標意識の向上に向けた取り組み
 - 定期的な職場ごとのミーティングの実施

| 日 | 内 容 |
|-------|--------------------------|
| 9/5～7 | 新潟越後妻有「大地の芸術祭」視察 |
| 9～28 | 第6回高松市定例議会 |
| 22 | 「都市交通シンポジウム2009」参加 |
| 25 | 「香川メディアアナメ斬りっ!」イベント参加 |
| 26 | 「社会起業家と地域マネジメント」セミナー参加 |
| 10/2 | 「戦争犠牲者追悼式」参列 |
| 3 | 「公明党全国代表者会議」青年局次長として参加 |
| 5 | 「経済環境常任委員会」視察 北九州市中央卸売市場 |
| 6 | 〃 大分地方卸売市場 |
| 12 | 「高松市の事業仕分け」傍聴 |
| 14 | 「香川高専 設立記念式典」参加 |
| 21 | 会派視察 取手市・アートプロジェクト |
| 22 | 〃 杉並区・子育て応援クーポン事業 |
| 23 | 〃 前橋市・一課一サービス運動 |
| 28 | 予算要望のとりまとめ |
| 29 | 「高松市NPOと行政との協働作り委員会」傍聴 |
| 11/2 | 「多肥保育所・芸術士派遣事業」視察 |
| 5 | 「全国中核市サミット・松山」参加 |
| 6 | 「経済環境常任委員会」参加 |
| 8 | 「高松市震災防災総合訓練・川東小学校」参加 |
| 15 | 介護総点検・街頭アンケート/田町パティオ |
| 18 | 介護総点検・施設へのヒアリング |
| 21 | 瀬戸内国際芸術祭「大島」視察 |
| 24 | 大西市長への平成22年度予算要望 |
| 25 | 「経済環境常任委員会」参加 |
| 29 | 「全国人間教育実践大会」参加 |
| 30 | 第7回高松市臨時議会 |
| 12/1 | 市内・私立幼稚園、保育所の調査 |
| 4～18 | 第8回高松市定例議会 |
| 7 | 「若者自立塾かがわ」調査 |
| 8 | 「しごとプラザ 雇用情勢」調査 |
| 14 | 6回目の一般質問 |
| 17 | 「緑のそよ風プロジェクト」セミナー参加 |
| 18 | 瀬戸内国際芸術祭「こえび隊勉強会」参加 |
| 19 | 「商都再生塾第1回」セミナー参加 |

●市民相談件数34件 ●相談累計274件

★日々の活動は「春田のブログ」をご覧ください。
<http://haruta.ptu.jp/blog>
 つぶやきは <http://twitter.com/KHaruta>



携帯はこちらから

INFORMATION

応援している市民活動やおすすイベントをご紹介します。

ボランティアスタッフ

瀬戸内国際芸術祭「こえび隊」募集!

瀬戸内国際芸術祭は、備讃瀬戸の7つの島と高松で繰り広げられる、アートと建築、民俗、イベントのお祭りです。1万年ものあいだ豊かな海を舞台に展開してきた固有の生活、暮らし、民俗は、アートを媒介にして、曲がり角にある私たちの文明を照らし、よく生きるとは何かを伝えてくれることと思います。空と海とが交響する世界、弧状列島の中心として私たちの文化の出発点となった瀬戸内をことほぎ、海の復権を願うこのお祭りが、島民と旅行者、サポーターという、地域・世代・ジャンルを超えた人々の協働によって支えられることを願っています。多くのサポーターが参集され、楽しく、激しく、ゆるやかな支援と体験をされんことを望みます。

瀬戸内国際芸術祭 総合ディレクター 北川フラム



問い合わせ:

瀬戸内国際芸術祭サポーター事務所【こえびポート】

〒760-0024 香川県高松市兵庫町3-10

TEL:087-813-1001 E-mail:info@koebi.jp HP:http://www.koebi.jp/

活動実績

皆さんからの要望が形になりました。



【多肥上町】道路の修繕

地域の方から「裏道だけれど通学路になっているので修繕をして欲しい」との声を受け対応、約200メートルの舗装修繕ができました。



◎相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。党員に限らず、どなたでも結構です。

春一番!

編集後記

先日、瀬戸内国際芸術祭の舞台の一つでもある「大島」に、1年前から開始された「やさしい美術プロジェクト」をお手伝いするため参りました。住民であり陶芸家の山本隆久先生から手解きを頂きながら、芸術祭に開設されるカフェで使用するカップなどを制作して参りました。土のぬくもりと「多くの若い人が訪れてくれてうれしい」と喜んで指導いただいた山本先生の笑顔に癒されました。これから始まる多くの結びつきに未来を感じます。



春田 敬司 はるたけいし

昭和42年2月23日、兵庫県神戸市生まれ。国立高松工業高等専門学校機械工学科卒。(有)ジャストブレイン代表取締役(経営コンサルタント)。平成19年4月高松市議会議員初当選。座右の銘は「為せば成る」。

会計報告 政務調査費

H21年度(4～12月)

| 経費の区分 | H21年度4～12月 |
|-----------|------------|
| 1 研究 研修 費 | 161,487 |
| 2 調査 旅 費 | 0 |
| 3 資料 作成 費 | 11,730 |
| 4 資料 購入 費 | 144,262 |
| 5 広 報 費 | 119,120 |
| 6 広 聴 費 | 0 |
| 7 人 件 費 | 0 |
| 8 事 務 所 費 | 0 |
| 9 そ の 他 | 0 |
| 合 計 | 436,599円 |

平成20年度から高松市議会の政務調査費用は情報公開となり、全議員が1円から領収書を添付して報告することになっています。



NEW KOMEI TO

「春風の便り」第6号

●発行者:高松市議会議員 春田敬司

●発行日:2010年2月

●連絡先:〒761-8013

高松市香西東町14番地8

TEL 087-842-5730